

ふかまちのまど

第166号 08年03月1日
発行元 深町町内会連合会
連絡所 63-3882

町内会連合会活動報告

河川清掃 (二月十七日)

町内会連合会会長 秋本賢治

町内の皆様には、平素から連合会活動にご協力又ご尽力頂きまして有り難うございます。先日は立春とは名のみの寒さのなかで、早朝より高平川・藤井川及びその支流(一部地区は溝)の町内一斉に草刈り、廃棄物等のゴミの收拾等々清掃が実施されました。町内の皆様のご協力により、足元の悪いなか、怪我も無く無事作業が終了し、きれいな河川となりました。厚くお礼申し上げます。これからもゴミの投げ捨て等、美しいように、タニシや虫も喜ぶ美しき環境を保持しよう。皆で努力しましょう。▲▲

上組町内会だより

親睦旅行のご案内

上組町内会長 中村 純

今年も上組町内会恒例の親睦旅行を次の通り行ないますので、多数のご参加をお願いします。なお、詳細については、追って上組町内会会員各位へご通知いたします。



期日 三月三十日(日)
行程

深大池バス停七時三十分発
出雲大社参拝・昼食・古代出雲歴史博物館見学・島根ワイナリー見学・買物
深大池着十八時二十分 ▲▲

深小PTAだより

一年間を振り返って

深小PTA会長 小川真徹

さる一月二十七日、新春ふれあい広場も、晴天の下、地域の皆様、保護者の皆様のご協力を得て、無事終わることが出来、大変有り難うございます。今年も例年になく、寒さが続いております。インフルエンザ等も流行っておりますので、健康には、充分気をつけられて、過ごして頂きたいと思っております。一年間を振り返って見ますと、子供たちが、安全であったこと、が、なにより良かったと思っております。これも皆様のサポートのおかげと、感謝しております。ご協力、今後ともPTA活動に、ご協力力の程よろしくお願い致します。▲▲

省エネポスター

村田 蘭さん (二中)

最優秀賞 (中国地区)

資源エネルギー庁主催による「平成十九年度省エネルギーコンクール」ポスター部門で、深町の村田蘭さん(三原二中二年)が、中国地区最優秀賞に輝きました。村田蘭さんの受賞の喜びと、この作品に対する思いをお伝えします。



「ふかまちのまど」 ホームページのアドレスは
<http://www.jcat.ne.jp/~fuka/top.html>

私は夏休みに省エネポスターに応募しました。「クーラーの風より自然の風」という内容の絵で、中国地区最優秀賞に選ばれ、広島の表彰式に出席してきました。企業の方もたくさん受賞・出席されていたので表彰状を受けるときはとても緊張しました。こんな立派な賞をもらえてとても嬉しかったです。これからいろいろな事に挑戦していきたいです。

深小だより

中学に向けて 決意を一言で



池田 悠

☆小学校のソフトボールのように、中学でも野球部で思い切り活躍したい。

馬越 香帆

☆英語や数学に力を入れ、テニスがんばる。

岡村 快

☆大好きな野球に精を出し、国語や社会の勉強との両立をさせる。

小川 真奈

☆先生や先輩の話をしっかり聞いてクラブと勉強を両立させる。

河原 美穂

☆中学で学ぶ事柄を確実に身につけて、パワーアップする。

窪田 快

☆新しい気持ちで中学校の勉強に取り組み。

小林 耐智

☆野球部に入って、フライングプレーができるようにがんばる。

佐藤 令弥

☆サッカー部に入り、正確なシュートやパスを旨とする。

私が「省エネ」に関心をもったきっかけは「地球温暖化」で地球が危ないと聞くようになり、私達も簡単な節約から始めないといけないと思ったからです。自然の風で我慢できる暑さですぐに冷房をつける人が多いので、みんなが少し我慢すれば地球を守ることに繋がると思いました。この作品をとおして伝えたいことは、温暖化を防いでいくために、冷房をつける事を当たり前にせず自然の風で涼しくするように考えてほしいことです。

村田 蘭 ▲▲

砂田 岳大

☆中学では数学をばりばりやりクラブもがんばる。

中重 恵介

☆中学に行っても思い切り、野球をがんばる。

林 孝樹

☆剣道部に入って体をきたえ、礼儀を学ぶ。

林 佑樹

☆大きな声で発言し、大好きな歴史や理科の勉強をがんばる。

藤原 紗那

☆挨拶をきちんとし、たくさん友達をつくり、勉強とクラブを両立させる。

増田 大将

☆数学とサッカーに熱心に取り組み

宮永 真歩

☆キックで学んだチームプレーをバスケットで生かす。

村田 茜

☆たくさん友だちができるようこちらから積極的に話しかける。▲▲

深町各種団体三月行事予定

- ◆上組町内会
- ▼親睦旅行(出雲大社) 三十日
- ▼小学校・幼稚園
- ▼お楽しみ会 三日
- ▼読み語り 四日
- ▼保健指導・体位測定 五日
- ▼集金日・貯金日 七日
- ▼大掃除 九日
- ▼廃品回収 十一日
- ▼六年生を送る会 十四日
- ▼卒業式 二一日
- ▼卒業証書授与式 二五日
- ▼修了式 二五日
- ◆如水館中学・高校
- ▼高校卒業式 一日
- ▼三学期期末テスト 三、六日
- ▼中学卒業式 十四日
- ▼終業式 十九日
- ▼新入生登校日 二五日



展望席

昨年三月、石川県能登半島で、七月には新潟県中越沖で震度六強の地震が発生しました。この地震の際、原子力発電所(以下「原発」という)で想定外の放射能漏れ等の事故も発生しましたが、原発の防災体制のずさんさ、未熟さが浮き彫りになりました。原発は絶対に安全でなければならぬものです。過去の世界での重大な原発事故は、全くの想定外の原因によるものであったといえます。一九六一年、アメリカでの軍事用原発事故は、原発の従業員が失恋により原発の制御棒を抜いて自殺を図ったことによる爆発事故だった。一九八六年の旧ソ連のチェルノブイリ原発事故は、点検停止のときしかできない実験を、安全装置を解除し、タービンがまわり続けるなかで行ったため爆発したという。日本の原発では微細な故障や事故が何度もあったようですが、これらの積み重ねが事故につながっている恐れがあります。また、これらの事実が隠蔽されていたこともあり、安全性に疑問や不安が拭いきれません。行け行けどんどんで開発された日本の原発。大地震や原発事故は忘れないうちにやってくるかもしれない。喉もと過ぎれば熱さを忘れることのないように、常に原発に厳しい目を向けよう。日本に約六〇〇万台ある自動販売機に消費する電力は、原発一基分に相当するそうです。利便性ばかり考えないで、省エネも考えていかないと!

私たちが暮らす社会は、平素から連合会活動にご協力又ご尽力頂きまして有り難うございます。先日は立春とは名のみの寒さのなかで、早朝より高平川・藤井川及びその支流(一部地区は溝)の町内一斉に草刈り、廃棄物等のゴミの收拾等々清掃が実施されました。町内の皆様のご協力により、足元の悪いなか、怪我も無く無事作業が終了し、きれいな河川となりました。厚くお礼申し上げます。これからもゴミの投げ捨て等、美しいように、タニシや虫も喜ぶ美しき環境を保持しよう。皆で努力しましょう。▲▲

私の生きがい

綱掛 愛美

私は、二中に入ってから、最初テニス部に入りました。最初はがんばろうと思っただけでしたが、実際のクラブ活動は予想以上にきつかった。その内、クラブをよく休むようになり、なんのためにテニス部に入ったのかが分からなくなりました。

そして私は、先生や親に相談し、テニス部から文化部の家庭科クラブに転部することに決めました。最初は緊張して通っていたクラブも、だんだんと慣れ、先輩や同級生ともなじめるようになりました。

そして私はよく、先輩や友達にグチをこぼすことがありました。でも先輩は、イヤな顔一つせずに、私の相談にのってくれました。おかげでこの三年間、学校に来ることができ、友達もいろいろと私の力になってくれたりしました。

いろいろとあった三年間で、イヤなことでも多々ありましたが、友達がいたからこそ乗りこえられたんだと思います。



俺の三年間

宮永 靖士

三年間を振り返ってみると、あつという間でした。入学式がこの前の様に感じられます。一年生、期待と不安でいっぱいでした。小学生の時は、クラス十二名だったのに、一クラス三十二名が三クラスもあり友達とサッカー部の仲間も沢山でき、毎日とても楽しくはしゃぎ過ぎて担任の家庭訪問が毎月あったような。二年生、先輩ができたクラブを一生懸命頑張る南部大会に出場出来ました。修学旅行では今まで以上友達と仲良くなり、友達との絆を感じました。もう少し勉強をしとけば良かったと今となって反省も多い一年間。

三年生、最後の市内大会で二位になり、三年間サッカー部の仲間と共に頑張りが協力することの大切さを学ぶことが出来ました。体育大会でリーダーになり初めて皆をまとめる難しさに悩んだ日もあります。つまずきながら全力でぶつかり、汗を流し力を合わせチームが一つになることが出来ました。優勝は出来なかつたけど忘れられない思い出の一つ。

一人では出来ない事も、仲間がいたから乗り越えられたし、辛いときは励ましあったり助け合ったりしながら、楽しい中学校生活が過ぎたと思えます。「感」そして俺をいつも見守つ

てくれていた先生方、心配、迷惑のかけつばなしで本気で厳しく叱ってくれました。今では感謝しています。ありがとっさいます。絶対大物になって逢いに行きます。

積み重ねてきた努力

奥本 悠輝

僕は中学生になってがんばってきたことが二つあります。

一つ目は、勉強をがんばることです。僕は一年生の時から高校受験には一年生の成績が反映することを知っていたので、必死で勉強しました。そのおかげで、今自分が行きたい高校を受験することができたので、三年間がんばってきた良かったです。

二つ目は、時間を守ることです。中学校に入学するまでは、時間を守る意識はあまりありませんでした。でも、中学校では遅刻したり、宿題など提出物を忘れられると成績にひびくと知り、時間を守るようになりました。受験の書類も期日厳守だったので、一年生の頃から時間を守ることとを習慣にしておいて良かったと思えました。



「努力は自分を裏切らない」という言葉を聞いたことがあります。もし、一年生の時からがんばっていなかったら、今ごろどうなっていたでしょうか。少し悲惨なことになっていたかもしれない。努力を積み重ねることは成功につながっていきと信じます。だから、これからも後悔するより先に行動するようにしたいです。



クラブで築き上げた宝

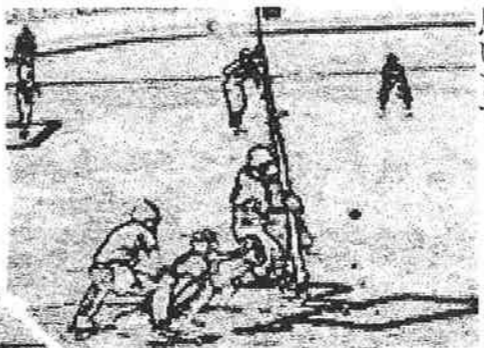
屋敷 隆大

僕はこの三年間を振り返ってみると、仲間との絆が深まったことが一番心に残っています。たくさんの人達が僕を支えてくれたから、僕はこの三年間を有意義に過ごすことができました。

僕たちに優しく、時には厳しく熱心に指導してくださった先生方。僕らが練習するために、道具の整理やグラウンド整備を毎日続け僕らの練習環境を作ってくれた後輩のみんな。暑い中でも、練習の手伝いなどいろいろ僕たちを助けてくださった保護者の方々。そして何より三年間ずっといっしょにがんばってきた同級生のみんな。たくさんの方々の支えがあったこそ仲間が深まったのだと思います。

クラブも終わりもうみんなが野球ができないんだなと思うとすごくさびしいです。けれどこの九人のメンバーで最後までがんばってきたことを忘れず、高校にいった後もがんばっていきたいと思います。

この三年間で学んだことは、みんなが一つの目標に向かって協力し合うこと。勉強に対してもクラブに対しても全力で取り組むことです。最後の大会では、南部大会までいきましたが惜しくも一点差で負けてしまいました。みんなが一生懸命がんばったのだから僕に悔いはありませんでした。このクラブで築きあげた経験を活かして、高校でも野球を続けていきたいと思えます。



三年間続けたこと

小林 良輔

僕は、中学校生活で思い出に残っていることは、三年間通してやったクラブ活動です。僕は、三年間サッカー部でがんばりました。夏は、暑くてのどがからからになるほどがなりましたが、冬は、足の感覚がなくなるほど、寒かった中もがんばりました。

三年生の最後の試合では、市内大会二位になりました。その試合には、出られなかつたけどベンチで応援しました。コートメンバーたちは、一生懸命走っていました。思い切りボールを蹴っていました。だからよい結果が出てうれしかったです。

僕は、二年間最後までクラブ活動を続けることができました。この理由は、サッカーが好きだったからです。とくに、みんなと楽しくサッカーができてよかったと思えます。これから高校生になっても、クラブをがんばっていききたいと思えます。

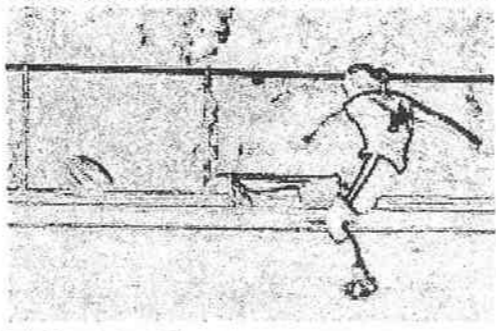
クラブと勉強

唐谷 稜

僕が中学校で楽しかったのはクラブ活動です。一年のときは、ちよつとつらかったけど二年生になってやつとキック力がついて飛距離が伸びてきました。入ってきたときはレギュラーはどうでもよくて、ただ楽しかったらいいと思っていました。でも、一年のときはあまり楽しくありませんでした。先輩が厳しすぎてちよつとミスしただけで怒られることもありました。でも、僕はまじめに蹴っていました。二年生になって、三年生の先輩がいなくなつてからちよつと楽しくなりました。キック力がますます上がつてシユート練習がたのしくなりました。キック力はつきませんが、技術の方はあまり上がりませんでした。

そして、二年生になりました。三年生のクラブは夏で終わりです。クラブが終わり、三年生には受験が待っていました。でも、僕は提出物を全然だしていませんでした。テストではそこそこいい点をとっていると言われ先生に言われましたが、内申が悪いと言われました。

自分でもそれは分かっていたけれど、やる気がぜんぜん出ずにずっと遊んでいました。三年生の冬になったとき、さすがにもうヤバイと思いい、初めて学校に残つてたままっている分をやるうと思いましたが、ありすぎて追いつけませんでした。



団結＝優勝

小川 茜

「赤組ー！いくぞー！ー！」「おー！ー！」掛け声とともに私たちは飛んだ。一、二、三、今日はみんな順ちようだ。十一、十二、十三、

足なみがそろい砂ほこりが立っている。二十一、二十二、二十三、私はだんだんしんどくなつてきた。三十三、三十四、三十五、

「もう一回、もう一回。」と思ひながら、必死で飛んだ。四十八、四十九、私の足がひつかかった。

「ごめん。」「ええよ。次がんばろおでえ。」今までの赤組は、団体競技で誰かが失敗すると、みんな責めていたけど、この時は違つた。一人一人がみんなのために、励まし合つて協力していた。その結果、見事赤組は優勝することができ

た。私は今回の体育大会で、協力することの大切さを改めて学んだ。そして、みんなで団結して、一人一人が一生懸命にすれば、勝利することもできるし、また、もつとみんなの仲間も高まることかできると思つた。高校に入ったたら、何事も一生懸命にがんばろうと思つた。

伝えたいこと

小林 優樹

足が重たい。気持ちが悪い。呼吸もしづらいい。立ち止まろう。二十分ぐらいつつと心の中でそう考えていた。でも、終了を告げるホイッスルとともにその必要はなくなつてしまった。何点入れられたか分からないくらい惨敗だった。センターサークルに集合している途中、悔し涙を流しているメンバーもいた。僕もその一人だった。試合前の勢いが嘘のよう。今は、誰一人として笑っていない。



「本当にこれで終わりなのか。」

と自問自答しても、その答えを出す気力はどこにも残つてなかった。ベンチに戻つたら、先生は励ましの言葉を言っていたと思う。でも僕は聞きたくなかったのだらうか、はつきりと覚えていない。

三年間一緒にクラブ活動をしてきたメンバーとの思い出は、僕にはかけがえのないものだ。僕は、三年間で、クラブ活動を一番一生懸命やつてきたのだから。

今まで、メンバーの足をひっぱつてきたこともある。でも、三年間も一緒にやつてきてくれたメンバーや指導してくれた先生に伝えたい。「ありがとう」



最後の体育祭

湯浅 瑞己

僕は、最後の体育祭もリーダーだった。二年生の時と違って二年生のリーダーは責任重大だ。二年生のリーダーは全学年をまとめなければいけないのだから。

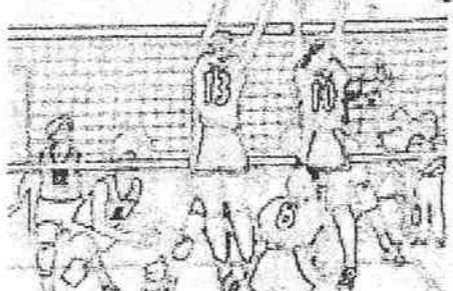
体育祭の中で印象に残ったことは、騎馬戦、

マスゲーム、そして、ソーラン。騎馬戦は、僕たちのチームが一回戦を勝ち上がり、決勝も勝ち、見事に優勝した。

マスゲームの全校生徒での行進が終わつて、二年生はタワーを作る時になった。どんどん上に乗って高くなっていった。立ち上る時に下から二番目の僕は結構きつくて、同じ段の人は少しづつ立っていくのに、僕だけ上手く立てずに、タワーは崩れてしまった。僕は思いっきり落ちて、口が切れて痛かった。みんなにすこく申し訳なく思つた。もう一つのタワーは完成しているのだ。僕たちはもう一度挑戦して次は見事に成功した。

ソーランは、僕は一年生の時から先輩がやっているのを見ていたので、ずっと憧れていた。僕は練習の時上手くできなくて悔しかったけれど、本番では、自分なりにベストを尽くした。とても良かった。

僕は、この最後の体育祭はリーダーになって不安だった。でも、みんながきちんとやってくれたから、助けられた。結果は二位だったけれど、すごく満足のいく体育祭になった。



三年目で気づいたこと

迫 真沙美

私が中学校生活で一番思い出に残っているのはクラブ活動です。

私はバレーボール部に所属していました。三年生の最後の試合の前に、友達がケガをしてしまい、私が代わりを任せられました。あまりやったことのないポジションだったのでとまどいました。それに、私は、あんまり背が高くはないので、そのポジションには向いていませんでした。

でも、失敗しても「ドンマイ」と言ってくれた友達や先生がいてくれて、とても励みになりました。

試合当日には、友達から応援の手紙をもらつたりして、勇気づけられました。

私は、クラブ活動を通して、友達の大切さを知りました。バレーボールは仲間との協力もあるので、励ましたり、励まし合つたりして絆が深まるのだと実感しました。私は本当に良い友達に出会つたと思います。

それから、部活の顧問の先生にも感謝したいと思います。毎日のように先生に迷惑をかけてきました。でも、いざ、クラブ活動を終えてみると、もうちよつとすなおになつておけばと思います。私がここまでこられたのも先生や友達のおかげだと思います。本当にありがとうございました。